

拜啓

師走の儀　“毎日ごシテりますが、皆さまに心清祥
のこととが慶申す。幸甚す。

さて、突然で恐縮ですが、ある十一月一日(土)の東京石桜同
窓会(折)、あれわれ参加者(三回の発起)が期せずして一
致した“同期会の開催”につき皆さまに相談申
上不度、所事を取つて、次申します。

今回(同期会)は、あれわれの胸裏に焼きつける
中学時代・高校時代……、やんちゃだったあれわれ
を懐してもまた親身に、時に温かく指導するたまいた青
年教師(現在は……)とお抱き作先生をお招きし、
先生を圍んで集まることにした」と考へてあります。
吉田先生は、御会を開いたところ左記の時期であ
れど、それでは地元と内意をいたすこじおります。
つきましては、お計画につて前さうのご質問をいた

き、同時に箇をさすの「都令をお聞きした上で、一々多く集まることある日時の設定を考へるうりなど恩みます。」（「がキと同封いたし等）たのじ、せせらじ回報下さるよ」）お預りします。（運送月十日以後）

皆さうなりと連絡に基いてあれわ北登鹿人が会場一時間半を相談、決定の上、及うちの二三室内を用い（上記）ます。

年、漸くおし迫り多事多端はもとより気持つて時期の大礼と不思議な事か、どうぞご協力下さります。重ねてお預りします。

記

敬意

一 同期会開催時期

昭和六十一年二月一日（土）～二日（日）
昭和六十一年二月十五日（土）～二十六日（日）

一場 所

未定（都心を含む）

昭和六十一年十二月三十日

岩手高中四回生
岩手高六回生 同期会发起
(東京近在)

浦照佐 小瀬
田井藤林 藤九
駿政一
隆哲光郎